

支援対象団体	事業名	組織と財政と広報の三位一体で事業を支える力を伸ばすプロジェクト
	事業名（副）	体験格差是正をめざす強化プロジェクト
	団体名	特定非営利活動法人舞台アート工房・劇列車

Ⅰ.団体の社会的役割

(1)団体の目的
「文化芸術の力で豊かで公平な社会づくりに貢献する」ことを組織理念にして設立された。その理念に基づいて、様々なとりくみを行ってきたが、その過程で「文化体験をしたくてもその余裕がないこどもと家庭」があり、それが生活困窮層に属する家庭に多くあることに気づいてきた。よって2020年度以降、久留米エリアの生活困窮層のこどもと家庭の「体験格差是正」と「アートを通じた心への支援」を目的とした活動を行っている。
(2)団体の概要・活動・業務
困難を抱えるこどもや親子に無料の人形劇アート体験を届けるパペットシアターPROJECTを主力事業としている。本事業は、現在においてクローズド型（支援団体と協力して団体の支援対象であるこどもと家庭に文化体験を提供）とオープン型（支援につながってなくても参加できる文化体験の場）の2つのタイプで行われている。本事業は文化体験格差の是正を図りながら、困難を抱えたこどもと家庭を励ますプログラムである。

Ⅳ.事業設計

(1)中長期アウトカム

【長期アウトカム】久留米エリアで体験格差解消を目的としたネットワークが持続可能なものとして形成されている。そのことで体験機会の乏しい親子が多様なアート体験機会を「普通」にもつようになり、幣団体もそこに寄与している。

【中期アウトカム】体験格差解消のとりくみやネットワーク形成が久留米エリアにおいて進んでおり、体験機会の乏しいこども・親子へのアート体験機会の提供が拡大している。それを担う幣団体の人員確保と自主財源確保が進み、事業の持続性が向上している。

(2)短期アウトカム		100字	指標	100字	初期値/初期状態	100字
1.人材補充と育成が各種講座によってシステム化され、事業を担える人材が増えている。			【定量】養成講座の回数とと担い手に登録した人数。【定性】講座プログラムの質と参加者反応		養成講座2タイプで計3回。要請した新人材0名	
2.積極的に事業にかかわる運営会員が増加しており、理事の若返りが進み理事会がリーダー機関として機能している。			【定量】運営会員人数と役員平均年齢、理事会年間開催数【定性】理事の実働状態		運営会員15名、役員平均年齢62.1歳、理事会開催年6回	
3.財源の多様化と安定化が出来ている。			【定量】寄付種類と金額。自主事業種類と金額。【定性】寄付者とのつながり、自主事業の反応		マンスリーサポーター0名。クラファン経験0。赤字収支。	
4.「交流型アート」の取り組みが拡大展開でき、より多くの体験機会の乏しいこども・親子提供できている。			【定量】クローズド型連携箇所と回数、人数。オープン型回数と人数【定性】参加者の反応		クローズド型5箇所10回。オープン型3箇所3回	

(3)アウトプット	100字	指標	100字	初期値/初期状態
1-1.上演チームに新しいCCastが所属し、2チーム体制が安定している。		【定量】Ccastの人数増加【定性】現場投入後の観察、懇談		CCast 1 名。2 チーム体制。
1-2.CCrew・ECrew・チーフECrewが事業の現場で活躍している。		【定量】Ccrew、Ecrew人数増加と、現場投入回数【定性】現場投入後の観察、懇談		CCrew 1 名、EcrewとチーフEcrewは現場未投入
1-3.事業実施のため各部署で実働する人材と、運営を担う事務局の連絡と意思疎通の円滑化がすすんでいる。		【定量】各部署実働人材増加、「報告、連絡、相談」体制の確立の有無【定性】実働人材との		各部署での実働人材あわせて 3 名
2-1.理事会がビジョン・ミッションに基づいて機能している。		【定量】ビジョンとミッションの確立。それに基づく研修の有無【定性】理事会観察		ビジョンとミッションの未確立
2-2.総務や広報を担える人材が加入している。		【定量】総務と広報を担う人材投入数と回数【定性】投入人材との懇談		総務 1 名、広報 1 名、新規人材 0 名
3-1.マンスリーサポーターが増加している。		【定量】マンスリーサポーター数、NEWSLETTER発行数【定性】事務局での定期的		マンスリーサポーター 0 名
3-2.これまでに取得したことのない助成金が獲得できるようになっている。		【定量】申請数と採択数【定性】会議における共有		未申請
3-3.寄付の多様化が進んでいる。		【定量】寄付種類、財源に占める自主財源割合 3 0 % 以上【定性】会議における共有		都度寄付のみ
3-4.収入源となる事業の開発が進んでいる。		【定量】事業開発の会議数【定性】開発物の実地投入の検証		未開発
4-1.「交流型アート」によって、団体間のゆるやかな横のつながりが広がっている。		【定量】クローズド型連携箇所と回数。相談会開催回数、参加人数【定性】アンケートと懇談		クローズド型 5 箇所 5 団体とつながりがある
4-2.「交流型アート」によって、参加者同士のゆるやかなつながりとコミュニティが生まれている。		【定量】「人形劇を活用した親子の居場所」開設と回数、参加人数【定性】アンケートと懇談		ゆるやかなコミュニティは生まれていない
4-3.地域の文化関係者、行政との間で「体験格差」を軸にした協働が生まれはじめている。		【定量】勉強会など他との協働による場の確立と回数、参加人数【定性】場の様子観察		協働は生まれていない

(3)-1 活動：

1-1-1.既存作品上演持続CCastの補充	22/200字
1-2-1.CCrew・ECrewの確保および育成（育成プログラムの開発・実施・見直し）	44/200字
1-2-2.バリュー（組織内規範）の整備	20/200字
1-2-3.組織図の見直しおよび確立	18/200字
1-3-1.オンラインコミュニケーションツールの研究・実行	29/200字
2-1-1.理事向け研修会の実施（カバナンス・コンプライアンスの周知）	35/200字
2-2-1.業務のマニュアル化	15/200字
2-2-2.各方面の専門的スキルをもった人材の勧誘	25/200字
2-2-3.運営会員の拡大（新規会員増加）	21/200字
3-1-1.支援者向け広報を継続的に発行	20/200字
3-1-2.マンスリーサポーター募集広報の工夫	23/200字
3-2-1.交流型アートが応募できる助成金の調査・申請	27/200字
3-3-1.弊団体に適している資金調達の手法について調査・研究	31/200字
3-3-2.イベント毎に募金を募る（募金箱・募金封筒）	27/200字
3-4-1.人形劇WS・観劇ニーズの新しい発掘とプログラム創出	31/200字
4-1-1.「交流型アート」（クローズド型）の実施	25/200字
4-1-2.行政との連携継続（久留米市絆事業等）	24/200字
4-2-1.「交流型アート」のプログラム改善と新規開発	27/200字
4-2-2.「交流型アート」（オープン型）の実施	24/200字
4-3-1.「体験格差」是正制度化にむけた勉強会の実施	27/200字
4-3-2.九州大谷短期大学との連携の発展	21/200字
4-3-3.シンポジウム2025オープンチャットの活用	27/200字
	0/200字
	0/200字
	0/200字
	0/200字
	0/200字